

第6学年 社会科学習指導案

指導者 川井 隆太

I 単元名 日本の歴史 -全国統一への動き-

II 単元の指導構想

1 単元について

- 本小単元は、学習指導要領の6年生の内容(2)ア(カ)「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解する」に基づいて設定された小単元である。この内容は、「歴史と人々の生活」に区分される内容であり、我が国の歴史上の主な事象についての学習で身に付ける事項を示している。

本小単元では、ザビエルによってキリスト教が伝えられ我が国に広がったこと、そして、全国統一を目指した織田信長、豊臣秀吉の2人の人物に焦点を当て、2人の業績について調べることを通して、どのように全国統一が進められていったのかをつかませるとともに、調べたことを比較したり関連付けたりすることを通して、2人の武将が全国統一に果たした役割について考えさせ、室町時代後期から江戸時代初期にかけての世の中の動きをとらえることをねらいとする。

全国統一という大事業は、一気に進められたのではなく、キリスト教の伝来とともに鉄砲が伝えられ、信長と秀吉の2人がそれぞれの役割を果たしながら進めたとも言える。信長は、鉄砲を中心とした戦い方で次々と戦に勝ち、領地を拡大させていった。そして、座や関所などの昔からの仕組みをなくし、商工業を発展させたり、キリスト教を保護し、南蛮文化を取り入れたりするなど、新しい仕組みや文化を取り入れるという役割を果たした。秀吉は、検地や刀狩を通して財政や下克上の世を安定させ、ついには全国をまとめあげるといって役割を果たした。それぞれが才能を発揮して、全国統一が成し遂げられたのである。それぞれの果たした役割を確認し、どのように全国統一がなされたのかを、多角的にとらえることが大切であると考えられる。

- 本学級の子どもたちは、これまでの小単元「武士の政治が始まる」「今も受けつがれる室町文化」の学習において、武士の暮らしの様子や鎌倉幕府の政治、元との戦いの様子と鎌倉幕府の衰え、室町に幕府が置かれたところに生み出された文化の特徴等について学んできた。これらの学習を通して子どもたちは、朝廷で力をふるった貴族に代わって武士が台頭し、幕府を開いて政治を行うようになったこと、元寇によって鎌倉幕府の政治体制が崩れ、室町幕府に政権が移っていったこと、この時代に生み出された水墨画や茶の湯、生け花、能や狂言などの文化は、現在も受けつがれていること等に気付いてきている。さらに、この後どのような時代になっていくのか、人々の暮らしはどのように変わっていくのかといったことについて、関心を示すようになってきている。

また、歴史学習に興味を示し、学習問題を解決しようと意欲的に追究活動に取り組んできた。学習問題について調べる際には、教科書や資料集に示されている内容から、問題解決に必要な情報を適切に取り出すことができるようになってきた。しかし、教科書の本文から分かったことと年表や写真などの各種資料とを関連付けて社会的事象をとらえることができる子どもは少ない。そのため、社会的事象の表面的な理解にとどまっている子どもが多い。また、調べたことから見えてくる社会的事象の特色や意味を考える際には、自分なりの考えを話すことができる子どもは限られており、一人一人の社会的事象について考える力は十分に育っているとは言えない。

- 以上のことから、指導に当たっては次のことに留意しながら学習を進めていきたい。
 - ① 単元の導入では、信長と秀吉の2人の武将が全国統一を目指したことをとらえさせることで、単元全体の学習の見通しをもたせ、歴史の流れを意識した学習計画をつくるようにする。
 - ② 学習問題に対する予想を基に、何が明らかになればよいのか視点を明確にさせることで、主体的に学習問題を解決できるようにする。
 - ③ それぞれが行った政治の意図や特色を考えさせる際には、百姓や農民など、立場を変えて考えさせることで、それぞれの人物の業績を多角的にとらえることができるようにする。
 - ④ 戦国の世の中が統一されていく様子について、キリスト教の伝来と2人の業績を中心に、政策の意図や政策が社会に与えた影響という「事象や人々の相互関係の視点」や、2人が行った政治によって世の中がどのように変化したかという「時期や時間の経過の視点」から、社会的事象を追究していく。また、子どもたちが2人の武将の行った政治を比較しながら、全国統一に果たした2人の武将の役割を考えることができるようにする。
 - ⑤ 単元の学習問題を意識して各単位時間の振り返りを行うことで、全国統一までの各単位時間の問いにつながりをもたせ、子どもが主体的に問題の解決に向かうことができるようにする。

2 復興教育（3つの教育的価値）との関連

○ いきる「④夢や希望の大切さ」とのかかわり

2人の武将の業績について調べることを通して、全国統一という大きな目標がそれぞれの政策を進める原動力になっている。大きな目標が原動力になっていることに気付き、何かを成し遂げる時に、どんな状況においても目標をもち、活動に取り組む強い意志が大切であることに気付く。

III 単元の指導計画

1 単元の目標

- キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の全国統一について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、複数の人物の業績に関する情報を比べたり結び付けたりしながら読み取り、調べたことを年表などに整理し、我が国の歴史の展開を考え表現することを通して、戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。
- 取り上げた人物のエピソードから業績を考えようとしたり、キリスト教の伝来などと関連づけ、我が国の歴史上の事象をより広い視野からとらえようとしたりしている。

2 学びのつながり

- 前單元までの歴史学習において、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、歴史的事象の共通点や相違点、新しい動きや考え方など、視点の変換や事象相互を比較・関連付けていく考え方を通して、日本の歴史の展開についてとらえてきた。
- 本單元では、前單元までで学んだ視点や考え方を生かし、キリスト教の伝来による世の中の様子の変化や、2人の武将が果たした役割について考えることを通して、全国統一までの展開をとらえていく。また、それぞれの役割を果たすことで、大きな事業を成し遂げられることを理解できるようにする。ある社会的事象がきっかけとなり、事象同士が相互にかかわっていく歴史的展開を学習する中で、物事を関連付けたり、筋道立てて考えたりすることで、社会的事象を深くとらえられることを理解できるようにする。

《「かんがえる子」アイウエへのつながり》

- 2人の武将が行った政策を調べることを通して、全国統一に果たした役割を考えることは、次單元「幕府の政治と人々の暮らし」において、家康が行った政策と江戸幕府の安定とを関連付けて考えたり、2人の武将の政策と比較しながら、江戸幕府が行った政策の意味を深くとらえたりする学習に生かされるものである。

《「かんがえる子」イへのつながり》

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①キリスト教の伝来、信長・秀吉の業績と、その意義について理解している。 ② 調べたことを年表などに適切に整理している。	③ 全国統一がどのように進められていくのかについて、学習問題やその予想、学習計画を考え、表現している。 ④信長、秀吉の業績を比較したり、関連付けたり、総合したりして、それぞれが全国統一に果たした役割を考え、適切に表現している。	⑤ 世の中が天下統一されていくことについて、社会的事象から学習問題を見いだしたり、主体的に学習問題を解決しようとしたりする。

4 単元の指導構想と評価の計画

時	学習内容（働かせる社会的事象の見方・考え方）	研究に関わる手立て 学習問題を把握する場面… 把 学習問題について追究する場面… 追 『資料【資料の種類】』， 「発問」	評価規準 及び 評価方法
1	織田・豊臣の天下統一に着目して、どのくらいの期間で統一されたか、どのように領地を拡大させていったかという視点でとらえ、織田・豊臣の政策を比較して考えることで、それぞれの政策の意味や特色についての関心を高める。 2人の武将は、全国統一をどのように進めたのだろう。	把 『長篠合戦図屏風』 「この戦いの絵図を見て、戦いの様子について、どんなことが分かりますか。」 把 『主な戦国大名とその領地【地図】』 『織田信長の勢力拡大【地図】』 『豊臣秀吉の天下統一【地図】』 「戦国の世の中は、どのように変化したのだろう。」	評価③・⑤ 発言 ノート

2 3	<p>キリスト教の伝来に着目して、ヨーロッパ諸国との貿易と全国統一にどのようなつながりがあるかという視点でとらえ、ヨーロッパ諸国との貿易と信長の勢力拡大を総合して考えることで、キリスト教の伝来が全国統一に与えた影響を理解する。</p> <p>信長が行った政策に着目して、政策と全国統一とのつながりの視点でとらえ、行った政策が商人や町人に与えた影響と関連づけて考えることで、信長の業績とその意義を理解する。</p> <p>織田信長は、どのようにして全国統一を目指したのだろうか。</p>	<p>把 『信長の勢力拡大【地図】』 『信長の戦い【年表】』 「なぜ、信長は短い期間で領土を広げることができたのだろうか。」 『鉄砲【写真】』</p> <p>追 『フランシスコ・ザビエル【肖像画】』 『キリスト教徒の増加【棒グラフ】』 「なぜ、信長はキリスト教を保護し、広めたのだろうか。」 『当時の世界とのつながり【地図】』 『ヨーロッパから来た商人たち【絵図】』</p> <p>把 『安土城と城下町【想像図】』 「信長は、キリスト教の保護以外に、どのような政策を進めたのだろうか。」</p> <p>追 「このような政策は、日本の商人たちや町の人たちにどのような影響を与えたのだろうか。」</p>	評価①・② 発言 ノート
4 本時	<p>秀吉が行った政策に着目して、政策と全国統一とのつながりの視点でとらえ、行った政策が農民や町人に与えた影響と関連づけて考えることで、秀吉の業績とその意義を理解する。</p> <p>豊臣秀吉はどのようにして全国統一を目指したのだろうか。</p>	<p>把 『検地の様子【想像図】』 『刀狩の様子【想像図】』 「何をしている様子でしょう。」</p> <p>追 『刀狩令（現代語訳したもの）』 「検地や刀狩によって、世の中はそれまでの時代と比べて、どのように変わったと思いますか。」</p>	評価① 発言 ノート
5	<p>2人の武将の政策に着目して、どのように全国が統一されていったのか、それぞれの政策につながるはあるのかという視点でとらえ、それぞれの政策を総合して考えることで、それぞれが全国統一に果たした役割を理解する。</p> <p>2人の武将は、なぜ全国統一を成し遂げることができたのだろうか。</p>	<p>把 『織田信長【肖像画】』 『豊臣秀吉【肖像画】』 「信長と秀吉はどのように全国統一を成し遂げたのだろうか。」</p> <p>追 『キリスト教徒の増加【棒グラフ】』 『ヨーロッパから来た商人たち【絵図】』 『安土城と城下町【想像図】』 『検地の様子【想像図】』 『刀狩の様子【想像図】』 「信長と秀吉の2人の武将が全国統一に果たした役割はなんだろうか。」</p>	評価②・④ 発言 ノート

IV 本時の指導計画

1 目標

○秀吉が行った政策を調べることを通して、秀吉の業績とその意義を理解することができる。

2 評価規準

- ・ 秀吉が行った検地と刀狩の意図をとらえ、戦国の世の中が安定していったことを理解している。

【知識・技能】

〈努力を要する状況の児童への手立て〉

- ・ 板書の「検地」や「刀狩」、「武士が支配するしくみ」などのキーワードを基に本時の学習を振り返らせる。

3 展 開

段階	学習過程	時間	学習活動	期待する子どもの姿	研究にかかわる手立て 『資料』 「発問」	◆留意点 評価
課題把握	動機付け	3	1 検地と刀狩の様子(想像図)から学習問題を設定する。 豊臣秀吉は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。	○ 何かを測定している。 ○ 土下座をしていて、かなり厳しく取り組んでいる。 ○ 刀を奪われている。	・ 『検地の様子【想像図】』と『刀狩の様子【想像図】』 「何をしているのだろうか。」 [手立て2ア]	◆ 何をしているところなのかという疑問をもたせることで、学習問題の設定につなげる。
	方向付け	5	2 問題解決の見通しをもつ。 (1) どのようにして全国統一を進めたのかを予想し、発表する。 (2) 予想について話し合い、追究の視点を明確にする。	○ 検地をして、全国からお米を集めたことで、財政を安定させた。 ○ 政治を安定して進めるために、米がどのくらい獲れるか測定している。 ○ 反乱が起こらないように、刀を集めているのではないだろうか。		◆ 出された予想を分類・整理しながら板書し、それを基に調べる視点を明確にする。
課題追究	情報収集	5 8	3 予想の検証に向けて、調べる。 4 調べたことを出し合い、情報を交流する。	○ 全国に家来を派遣して田畑の面積を測った。 ○ 土地の良し悪しや収穫量、耕作している人の名前を記録している。 ○ 耕作者は田畑を耕す権利を認められる代わりに、決められた年貢を納める義務を負った。 ○ 村に住む人々を百姓身分とし、これらの人々が一揆を起こさないように刀狩令を出して、刀や鉄砲などの武器を取り上げた。 ○ 武士や町人は城下町に住まわせ、百姓に対しては、田畑を捨てることや武士や町人になることを禁じた。	『検地で使われたものさしとます』 『刀狩令』	◆ 検地や刀狩りの目的と方法が明確になるように整理する。
	考察	16	5 秀吉が行った検地と刀狩の政策を全国統一との関係や農民の立場から考察する。 (1) 政策が全国統一にどのように影響したのかについて考える。 (2) 農民の立場から秀吉の政策の意味について考える。	○ 検地によって、年貢を安定して取り立てることができるようになり、世の中が安定したことで、全国統一につながったのではないかと。 ○ 刀狩によって、身分をはっきりさせ、一揆を防ぎ、下克上の世の中を安定させたことが全国統一につながったのではないだろうか。 ○ 自分の田畑をもつことができるようになった。 ○ 刀を差し出すことが、大仏をつくる助けとなり、この世でもあの世でも救われる。 ○ 土地を離れられなくなった。 ○ 自分の田畑を守る刀がなくなってしまった。	・ 「検地や刀狩によって、世の中はそれまでの時代と比べて、どのように変わったと思いますか。」 [手立て2ア] ・ 『刀狩令の条文(追加)』 「検地や刀狩は、農民にとってどのような政策だったのだろうか。」 [手立て2ア]	◆ 政策の意図と全国統一を関連付け総合して考えることができるようにする。 ◆ 秀吉の政策を農民の立場からとらえさせ、秀吉の政策の意味を多角的に考えることができるようにする。
課題解決	まとめ・振り返り	8	6 秀吉が行った政治によって世の中はどのように変わったかという視点で、本時の学習をまとめ、振り返る。	○ 信長の政治を引き継いだ秀吉が、検地や刀狩を行い、武士と町人・百姓の身分がはっきり区別され、武士が社会を支配するしくみを整えた。 ○ 信長の政治を引き継いだ秀吉が、検地や刀狩の政策により、武士が支配する社会の仕組みを整えていったことで、全国統一を果たした。	・ 世の中の変化という時間的な視点から、信長の時代の様子と関連付けて考え、本時の学習をまとめるとともに、自分の考えの変容をノートに記述させる。 [手立て2イ]	評価 秀吉が行った検地と刀狩の意図をとらえ、戦国の世の中が安定していったことを理解している。 【知識・技能】 (ノート・発言)